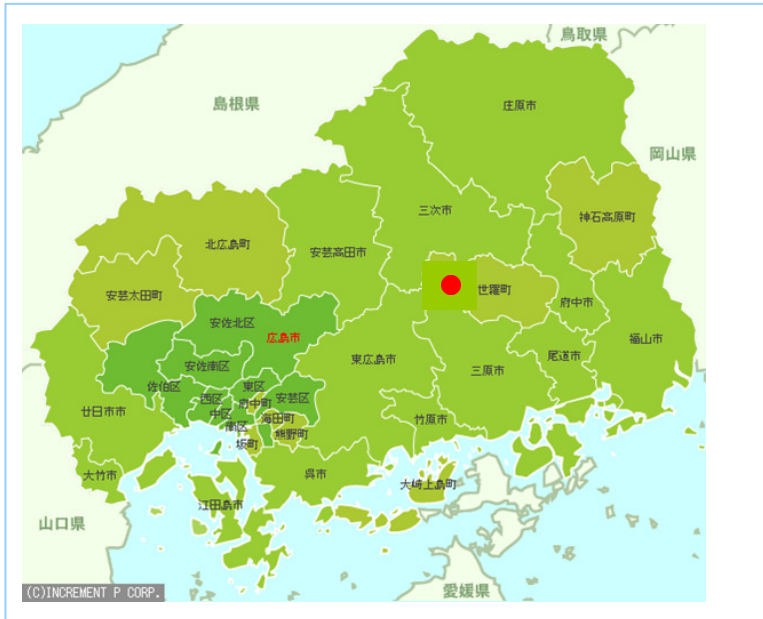


# 大和診療所 藤家証一所長 からの便り



〔 大和診療所近景 〕



## 大和地区の現況

－2007年から2009年の推移－

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| ■ 人口 7,035 → 6,749人  | ■ 医療機関  |
| ■ 65歳以上 34.0 → 35.1% | ・ 病院 1  |
| ■ 75歳以上 20.0 → 21.3% | ・ 診療所 4 |

広島県のヘソ辺り、三原市大和町に住みつき、公的な無床診療所の所長を務めて22年目になる。途中、県立広島病院で計4年間、ブラッシュ・アップを兼ねてへき地支援の仕事をさせていただいたが、医師になってほとんどをプライマリ・ケアの現場で過ごさせてもらっている。どうしてこんなに魅了されたのだろうか、自分でも不思議だ。

大きな失敗もなく何とかやってこられたことは患者さんを含めた周囲の理解と支えのおかげと感謝している。

プライマリ・ケアの特質というのは学問的にはいろいろ言われているが、一番は「幅の広さ」とわたしは考えている。新臨床研修制度が始まって研修医が当地にも来てくれるが、「ここは何でもありの世界ですね」と感想を残してくれている。

医学的な面からは内科を中心とした整形外科、外科、皮膚科、耳鼻科、泌尿器科、心療内科など多科診療。対象年齢は0歳児から100歳まで（ちなみに当院の最高齢は102歳）。

医療的には一般外来診療、訪問診療を中心として、乳児検診、予防接種、保育園・学校医などの保健活動から、がんなどの終末期医療まで。予防接種後の子どもの泣き声をBGMに、お年寄りの嫁姑問題の聞き役になる。身体・心理的な問題から、社会的問題まで、内容は多種多様である。病気を診ることはもちろん、生活を支える事までを視野に入れなければならないから、医療だけでは対応しきれない。いわゆる「保健・医療・福祉の連携」も水や空気のようなもので、在って当たり前、利用して当たり前、参加して当たり前である。ケアマネジャー、訪問看護、訪問リハビリ、通所施設などとタイアップしながら何とか生活を支えていこうと努力している。

何か一つのことを打ち込んで、ということが苦手で、飽きっぽい性格なので、こんなバタバタした日常診療が自分に合っているのかもしれない。

何よりも疾病だけでなく生活を視野に入れた医療を通して、人生を勉強させてもらっている。わたしにとってのプライマリ・



〔 藤家所長とスタッフの皆さん 〕

ケアは多種多様なニーズに対処し、必要に応じて地域の医療・福祉・社会資源の力を借りながら、地域の人を生活丸ごと支えることである。

そんな大風呂敷を広げて責任を考えれば恐ろしくもあるが、連携を意識してチームで解決していけば、どこからか知恵は出てきて道は開けていくと信じ、何とか打率を上げたいと思っている。「互いに切磋琢磨しながらも緩やかなチームワーク」が、この地に居着いて長く続けられた理由の一つと思う。これからもこのチームに積極的に参加し、一員としての責を果たしていきたいと願っている。

### 一般診療

#### ■ 守備範囲の広さが特色 「なんでもあり」の世界

- ・ 0歳児から100歳老人まで
- ・ 予防接種から終末期医療まで
- ・ 内科を中心に多科に及ぶ
- ・ 身体的問題、心理的問題、社会的問題
- ・ 保健から福祉まで

#### ■ ある程度の深さも必要

- ・ 内視鏡、超音波
- ・ 緩和ケア

### 藤家所長のプロフィール

- S58年 自治医科大学卒業 / 県立広島病院研修
- S60年 公立みつぎ総合病院 (210床)
- S62年 県立瀬戸田病院
- H元年 豊北診療所 (現: 大和診療所)
- H4年 県立広島病院 内分泌代謝内科
- H6年 大和診療所
- H9年 県立広島病院  
地域医療センター・総合診療科
- H11年 大和診療所